

令和3年5月15日

作成者 藤根 塩崎

第15回おしゃべりサロン レポート

今回はスタッフ含め8名の方と、連れ添いの子どもたち4名が参加してくださいました。

1.みんなげに寄せられた数々の課題と、2.市政に求めること。2つのテーマで話し合いました。

子育ての課題を話そう

子どもの居場所（グループ1）

- 月1回でも、子供の居場所があると嬉しい
 - 静岡市内の児童館には、卓球台などがあり、中学生利用 OK な場所も。
 - 民間の学童保育が、静岡市には多くある
 -

子育てと仕事（グループ2）

- 職業によって、育休のとりやすさに差を感じる。職場の理解と体制次第。
- 静岡市から袋井市へ移住した際、保育園に入園できなかったため、こども園に入った
- 単純に保育園を増やせばいい問題ではないと思う。育休のとり方、企業の姿勢、環境によるので、踏み込んだ調査が必要
 - 保育人材の確保・保育の質の確保
 - 小規模園の定員割れ
- 男性の育休率は、短期（1週間）でも、長期（数年）でも取得した数に含まれるため、数が増えれば問題が解決されるわけではない。
- IT系企業の場合、変化のスピードが早く、数年後の復帰は厳しいと思われる
- テレワークしている方も、子供の用事や、子どもの面倒などで集中できないという。在宅だから問題が解消しているわけではない
- **仕事を基礎にした社会、仕組みになっているので、「家庭」も組み込んだ社会システムになっていくといいと思う。**
- 夫の協力を得るには？
 - 進行管理。突発的なイレギュラーは常に起きる前提を共有し、事前準備や万が一の切り札を多く持っておく。
 - 小さなことでも感謝の気持ちを伝え、褒める（自分と違って否定しない）
 - 一番遠回りに思える道を選ぶ

新市政に対する要望

情報発信の戦略設計

- 袋井市議会議員のなかでも、ウェブサイト・SNS で積極的に発信する議員は少数派。もっと情報発信をマメにしてほしい。
- 高齢者の IT への抵抗感
 - 高齢者が IT 慣れるするには、「面白い」ものとして体験することが大事
- 情報発信は、届ける先の準備ができていないと届かない（スマホを持っていない。持っ
ていても電話・メール以外使わない、見るものが決まっているなど）
- 子育て情報も含め、「誰が」「どこで」発信するのか全体的な戦略を立てると良いのでは
ないか

「帰りたい町」にするには戦略が必要

- 仕事や家庭の方針（跡継ぎ）で戻る人は多いだろうが、それ以外の理由が浮かばない。
- 産業があり、就職でき、子育てしやすい環境があれば帰ってくる？
- 丁度いい事業物件が無く、勤務地は浜松。袋井市は起業しにくいと感じる。広い自宅、
敷地や、緑があれば有利かもしれないが……。
- 袋井で育休を取得し、職場復帰したが、元の仕事には戻れなかった。

県知事選に向けて、選挙について

- 市議会を見たことがあるかたは少ない。傍聴にでかけましょう。
- 地区の意見が通らなくなるという理由で選ぶ人が多数派。議員の実績を見て決めたい
 - ホームページに議員個人のホームページ、SNS を掲載してほしい
 - 情報発信に力を入れてほしい
- 定期的に市政とかかわるイベントがあるといいのでは？市民の声が吸い上げられる。
 - みんなのぼっけの市議会議員と話す会は、参加市民、議員ともに良い評価を頂いて
いる。今後もつづけていきたい。

子育ての課題について

- みんなのぼっけに寄せられた声のように、困っている人たちは声を上げて欲しい
- ボランティア団体を立ち上げたい人のフォローが欲しい
 - 静岡県子ども未来課に、子育てサークル立ち上げのアドバイザー制度がある。
 - 子育てサークル育成アドバイザー：

<http://www.pref.shizuoka.jp/kousei/ko-130/kosodate/circle.html>

- 県が発行する子育て・福祉関連の広報誌は非常に参考になる